

平成 7 年 1 2 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

馬場家の正月行事《東京都指定文化財の家》

茅葺き屋根の、堂々とした構えの馬場家は、御嶽神社の社家の一軒である。この家の特徴は、その建物と共に、古式の行事を今の生活の中に、実践していることである。その正月行事についてお伝えしたいと思う。

- 煤祓い 十二月下旬に行う。青笹で、神棚、家の内外を祓い清める。煤を払った笹は、一日間、門にとどめて、翌朝、山の神（塞の神）へ供える。
- 注連縄作り 正月に飾るしめ縄を藁で作る。門、玄関、神棚、歳神のものと、輪飾り三十五本が作られる。輪飾りは、生活の為に必要な所、便所、風呂場、台所、小屋、そして水道の蛇口、火の元、井戸、蔵の入り口などに供えられる。
- 辻払い（晦日祓い） 家内の一年間の罪穢を御幣で祓い、その幣を、門を出た所の辻に立てる。
- 年縄 部屋をひと回り巡らす注連縄をいう。これに垂紙を下げて、神聖な所とする。この部屋に年神様をまつり、正月の行事の準備などにつかう。この縄は、正月が終わるとひとまとめにして一年間神棚に飾っておく。年縄の所以である。
- 歳神棚 天井から吊り下げた棚に、歳神をまつりこむ。歳神とは、大歳神、御歳神、若歳神の三柱、但し御岳山では、岩歳神ではなく大山祇であろうと、馬場氏が教えてくれた。天井から吊るされているのは、神棚の向きを年によって変えなければならないための、工夫である。その年の恵方に正面を向けて飾るのである。両側を松の枝で飾り、中央に御幣を立てる。新年を迎えると、餅、米、御酒、雑煮を供える。夕方には御飯が供えられる。これを三が日の間行う。
- 勝男木採り 二日の仕事始めとして、勝男木（ぬるで）を採りに山に入る。この時、山の神に御幣を供えることも行事の一つである。
この勝男木は、小正月に俵の型に切って、神棚、エビス、荒神、庭の祠などに供えるためのもの、さらに、カイカキ棒（粥かき棒）と言って七草粥をかきまわす祭具もこれで作る。カイカキ棒は、一方を十字に割って、そこに上新粉で作った繭玉をはさむ、かきまぜながらその繭玉が粥に落ちると、子供に恵まれるといわれている。カイカキ棒は、男根の象徴で、方策祈願のまじないでもある。
- 七草粥 歳神の前で「七草、なずな、唐土の鳥が、日本の国に渡らぬうちに、ストントン」

という称え言を七回、火箸、お玉、しゃもじなど六品の道具で切るまねをする。七回目に包丁で七草を切って、これを粥に入れる。

- この他、若水取り、小正月行事、蔵開き、繭玉飾りなどが行われる。

これらの行事は、古いものをそのまま伝えることが目的ではない。過去に向かって行われている行事ではないのである。これらは今の『自分』のために為される。それは正統を守ろうとする意思である。このことを廃するのは、今の世の流れに、自分を失うことになりはしないか。そういう姿勢から為されている。馬場家のこれらの行事は、けして文化遺産ではないのである。

(文責 金井)